

第7分科会「研究・研修」運営概要

【研究課題】

学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方

【研究の視点】

1. 教職員としての資質能力の向上を目指した研究・研修体制の充実
2. キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

分科会研究協議の運営計画

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、しなやかな知性と豊かな人間性をもつ子どもの育成を目指し、教育活動の直接の担い手である教職員が資質・能力をより一層高め、教育力を向上させることが求められる。

これからの教職員に必要とされる指導力は、教科指導・生徒指導・学級経営などの能力に加え危機管理能力や保護者対応などへの対応力等も含めた総括的な実践的指導力であり、児童や学校・地域の実情に合わせて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を選択し、指導の充実を図っていく能力である。加えて、教職に対する強い情熱をもち、教育にかかわる専門家として、保護者と連携・協働を図り、児童の人格形成によい影響を与える存在となることを期待されている。

校長は、教職員一人一人の学級経営力・生徒指導力・校務企画運営力などを見極め、個々に応じた的確なミッションと具体的な解決に向けたビジョンをもたせるとともに、教職員の資質・能力、チーム力の向上、学校経営への参画意識を高める研究・研修を進めていく必要がある。

本分科会では、教職員の資質や能力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と、その推進について、具体的方策と成果を明らかにする。

(1) 教職員としての資質能力の向上を目指した研究・研修体制の充実

- ・教職員の人間力を培い、専門性を発揮して教育力と授業力を高める研修体制の確立
- ・教職員一人一人が研鑽を積み、専門性・人間性を高める自己変革の実現

(2) キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

- ・ミドルリーダーに求められる資質・能力を引き出し、その育成に向けた学校づくりの推進
- ・管理職としての資質・能力の向上を図る具体的方策

昨年度までの成果・課題

～ 平成 29 年度 全連小佐賀大会・道小宗谷・稚内大会より ～

【成果】

- ・授業改善を核とした「担任力」の向上が学校教育力の向上、そして保護者や地域の信頼につながる。
- ・個々の教職員の特性を把握し、力を発揮できる場を保障することが、協働する質の高い組織につながる。
- ・校長の役割は、明確なビジョンを示し、「同僚性」の良さを生かした学校づくりを行うことであり、そのための取組が、教育集団としての組織力や教育力の向上につながる。
- ・校務運営組織配置では、戦略的な「期待配置」「育成配置」により意欲の高揚を図ることができる。
- ・研修の目標やゴールを示し、力量向上への道筋を「見える化」することがポイントである。
- ・校長の肯定的評価、期待や信頼を伝えることが、自己有用感を高め研鑽意欲の高揚につながる。

【課題】

- ・教職員の年齢構成の偏りにより組織の一員としてのビジョンをそろえていくのが難しい。ミドルリーダーを育成していくことや再任用職員の活用がポイントである。
- ・人事評価の活用等、個々の教職員一人一人に、教職員としての将来の展望をもたせるための取組をどう行っていくかを具体的に検討しなければならない。
- ・教職員の多忙化の改善を目指し、メンター研修や同世代研修など研修のスタイルの工夫、研究・研修における選択や重点化、分担などを踏まえ、短時間で大きな成果を生むように効率化を図る。

研究発表の概要

【視点1】教職員としての資質能力の向上を目指した研究・研修体制の充実

研究発表者 和歌山県 紀の川市立粉河小学校長 嘉本 知子 先生

「若手教職員の資質・能力を高める校内研修と校長の役割」

発表の概要

大量採用と大量退職に伴い、紀の川市の若手教職員の割合は高く中堅教員が極端に少ない。若手教職員の育成が急務の課題である。このような状況の中で、外部機関「学びの丘Eサポート」の活用や若手教師を支える校内研修の取組など、教職員の資質・能力を高める校内研修体制の充実・強化に取り組んでいる実践から、若手教職員の力量向上に果たす校長の役割について提言。

【視点2】キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

研究発表者 留萌地区 天塩町立啓徳小学校長 山口 清敏 先生

学校の教育力を向上させる研究・研修の推進において発揮する校長のリーダーシップ
～留萌管内小中学校長会の研究をベースとした留萌管内における実践から～

発表の概要

留萌管内は、児童数の減少に伴い学校数も減少している状況から、自校における校内研修の充実や市町村単位の研修活動の活性化が課題となっている。こうした中、教職員の資質・能力の向上と組織体の協働性を高める学校経営の推進を図ること、加えて、学校全体の総合的な力量向上を目指す過程で教職員個々の育成・向上をも図る研究・研修の効果的なあり方について、4つの窓口から研究を進め、管内の各校長による実践例を考察することにより課題に迫ってきた取組について提言。

協議の流れ

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 開会・日程確認 (10分) | 6. グループ協議 視点1, 2 (60分) |
| 2. 趣旨説明 (10分) | 7. 全体協議 (20分) |
| 3. 研究発表・視点1, 2 (40分) | 8. まとめと今後の課題 (10分) |
| 4. グループ協議 (15分) | 9. 連絡・閉会 (03分) |
| 5. 休憩 (10分) | |

討議の柱

【視点1】

組織の実態に応じた教職員の資質・能力を高める校長の関わりと指導性

キーワード ベテランから若手へ伝える組織体制 時間の生み出し方 研究・研修体制の構築 (内容・時間・目標)

【視点2】

教職員のキャリアステージに応じた学校経営への参画意識を育む校長の関わりと指導性

キーワード その年代でもたなければならない研究・研修の課題 将来への展望 ミドルリーダー

お願い

グループ内で名刺交換を行いますので6枚ほどお持ちください。

グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿(座席表)を掲載しますのでご確認ください。司会・記録を担当していただく方につきましては、当日のグループ討議の進行をよろしくお願いいたします。

各地区・各校の現状や取組についてグループ討議の中で交流します。